（様式３－１） 研究研修活動記録票（研究会、研修会開催又は参加に要する経費）

嬉野市議会議員　　芦塚　典子

開催月日	平成30年8月1日（水）
開催時間	14：00～16：30
開催場所	リファレンス駅東ビル
主催者	地方議員研究会
研修会等の名称	議員が知っておくべき財政の話　理論編
講師等の氏名等	保険福栄公社　常務理事兼事務局長　程岡俊和
内容・結果等	平成30年度地方財政対策のポイント （1）通常収支分 ・一般財源総額について、子ども・子育て支援等の社会保障関係やまち・ひと・しごと創生事業費1．0兆円とうの歳出を適切に計上することにより、前年度を上回る62．1兆円を確保 ・清算減の繰り延べ、地方公共団体金融機構の公庫債権金利変動準備金の活用により地方交付税の原資をできる限り確保し、地方交付税について16．0兆円を確保あわせて臨時財政対策債を前年度比▲0．1兆円抑制 （2）公共施設等の適正管理の推進 ・公共施設等の老朽化対策をはじめ適正管理を推進するため、「公共施設等適正管理推進事業費」について河川、港湾等の長寿命化事業やユニバーサルデザイン化事業を対象に追加するなど内容を拡充するとともに、事業費を増額し、0．5兆円を計上 （3）歳出特別枠の廃止及び必要な歳出の確保 ・平成26年度から行ってきた平時モードへの切換えを進めるため、公共施設等の老朽化対策・維持補修のための経費や社会保障関係の地方単独事業費の増額に対応した歳出を0．2兆円確保したうえで、歳出特別枠を廃止 （4）国と地方の財政状況 ・リーマンショック後、国と地方の財政状況の不均衡が拡大。 地方の財政状況は、PBが黒字、財政収支も黒字化。 （5）国と地方の財政状況（ストック） ○　30年前から10年前までは、国、地方いずれも長期債務残高が増加 ○　国の長期債務残高は、約340兆円増加（10年間）、地方は微減。 ○　地方の基金残高は、1．6倍に増加。（10年間） （6）マトメ 財政問題に向けた論点は、世代間格差の改善と将来につながらない赤字臨時財政対策債の改善と将来リスクの軽減である。短期的には、赤字地方債に頼らない税源の構成、歳出面では社会保障、インフラ長寿命化等、長期的な観点から財政企画に取り組むことである。

上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額（円）
	会費		15,000
	旅費		5,380
	宿泊費		0
	合計		20,380